

医学教育モデル・コア・カリキュラム 令和4年度改訂版（案）概要

医学調査研究チーム座長
小西靖彦

コアカリ改訂に向けた基本方針(再掲)

1. 20年後以降の社会も想定した資質・能力の改訂
2. アウトカム基盤型教育のさらなる展開（学修目標の再編成と方略・評価の整理）
3. 医師養成をめぐる制度改正等との整合性の担保に向けた方策の検討（国家試験、共用試験の公的化と医学生の医業の法的位置付けを踏まえたシームレスな参加型臨床実習の推進、国際標準への対応等）
4. コアカリのスリム化の徹底と読み手や利用方法を想定した電子化
5. 研究者育成の視点の充実
6. 根拠に基づいたコアカリ内容
7. 歯学・薬学教育コアカリとの一部共通化

令和4年度版 医学教育モデル・コア・カリキュラムの構成

- 医学教育モデル・コア・カリキュラムの考え方
- 医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の概要
- 第1章 医師として求められる基本的な資質・能力
- 第2章 学修目標（別表を含む）
- 第3章 学修方略・評価（事例を含む）
- 診療参加型臨床実習実施ガイドライン

参考資料1 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」今回の改訂までの経緯

参考資料2 医学教育モデル・コア・カリキュラム及び歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒常的な組織の設置について

参考資料3 医師・歯科医師・薬剤師が関わる法令一覧

参考資料4 略語集

第4回連絡調整委員会でのご指摘を受けた修正

- 診療参加型臨床実習GLに「医学生が臨床実習を行う医業の範囲を定める際の指針」の掲載が必要ではないか
 - 厚生労働省の報告書などをもとに、同意取得について詳細な記載として同意書の例も掲載した

- S0-01社会保障に「母子保健」や「学校保健」を加えてはどうか
 - S0-01-03-05 “成育基本法、母子保健法、母体保護法、児童福祉法、児童虐待防止法等、母子保健施策の意義と概要を理解している。”
 - S0-01-03-06 “学校保健安全法、学校医の役割、学校感染症等、学校保健の意義と概要を理解している。”

- 一般に広く用いられている用語ではないため、「方略」の言葉の過程を記載した方が良いのではないか
 - 第3章 学修方略・評価の冒頭「I.学修方略」において次のように記載を加えた
“学修目標を達成するために必要な具体的な教育方法(Teaching Method)と学修する順序、人的資源や物的資源、対象者、人数、選択・必修等のより大きな教育戦略(Educational Strategy)を合わせて、「学修方略」という”

パブコメを受けたコアカリへの反映

【医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の概要】

- コアカリにおける「資質・能力」の言葉の考え方、およびアウトカム基盤型教育におけるアウトカムとの関係について改訂の概要（P. 12）の欄外に追記した
 - モデル・コア・カリキュラムにおける資質・能力の言葉について、文部科学省が用いる用語としての「資質・能力」の定義（※）を踏襲しつつ、「一人の個人が身に付けることができる資質・能力」の言葉に統一させることで、読者に対してよりわかりやすく表現することを目指した。なお、この資質・能力は、アウトカム基盤型教育における「アウトカム」に相当する。

（※）「資質」「能力」について、例えば、教育基本法第5条第2項では、義務教育の目的として、「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うこと」とされている。ここで、「資質」とは、「能力や態度、性質などを総称するものであり、教育は、先天的な資質を更に向上させることと、一定の資質を後天的に身につけさせるという両方の観点をもつものである」（田中壮一郎監修『逐条解説 改正教育基本法』第一法規、2007年）とされており、「資質」は「能力」を含む広い概念として捉えられている。
- コアカリの概要、改訂のスケジュール、改訂版の章建ての概略図を作成し、20～22ページに追記した

パブコメを受けたコアカリへの反映

【資質・能力】

- 改訂の概要「改訂の各論」(P. 15) に追記

1. 改定された資質・能力の ①プロフェッショナリズムの項目

『今回のモデル・コア・カリキュラムでは、プロフェッショナリズムに関する学修目標は、資質・能力「PR：プロフェッショナリズム」に紐付く学修目標以外の学修目標にも多数含まれている。資質・能力「PR：プロフェッショナリズム」では、例えば、資質・能力「GE：総合的に患者・生活者をみる姿勢」や「LL：生涯にわたって共に学ぶ姿勢」に含まれなかったが、医学生・医師として学び働く上で重要だと考えられる項目について扱うこととした。』

- “プロフェッショナリズム” は、広義では医師に求められる能力全てを指すこともあるが、本コアカリにおいては、主に態度や医師の職業倫理に関連する内容、また他の資質・能力に該当しない項目・内容を記述した。

パブコメを受けたコアカリへの反映

【学修目標】

• PR-04 生命倫理

PR-04のタイトルを「生命倫理」とし、第2層 PR-04-01を「臨床倫理」に変更した

- PR-04-01-01 生と死に関わる倫理的問題の概要を理解している。
- PR-04-01-02 多様な価値観を理解して、多職種と連携し、自己決定権を含む患者の権利を尊重する。
- PR-04-01-03 診療現場における倫理的問題について、倫理学の考え方に依拠し、分析した上で、自身の考えを述べることができる。
- 関連してS0-04-04 「哲学・倫理と医療」 ⇒ 「哲学と医療」に変更

• GE-01-06 緩和ケア

- 緩和医療の対象は疼痛だけではないため
⇒ GE-01-06-02 「がん・非がんの身体症状緩和の薬物療法や非薬物療法の概要を理解している。」に修正
- 麻薬性鎮痛薬 ⇒ オピオイド鎮痛薬に修正 (CS-02-04-12)

パブコメを受けたコアカリへの反映

【学修目標】

• PS-01 基礎医学

- 現行のコアカリに記載があった「エピゲノム」について、改訂版コアカリ（案）では削除となっていた ⇒ 追加・修正を行った(PS-01-01-06)

• PS-02-17 精神系

- 「精神系の構造と機能について基本的事項を理解している」がわかりにくいという指摘 ⇒ PS-02-17-01 「脳とこころの働きについて基本的事項を理解している。」に修正

• PS-03-05 救急・集中治療

- PS-03-05 「救急系（中毒・環境因子を含む）」とされていた第3層の表記を「救急・集中治療」に変更した
 - 集中治療の中で医学生が学ぶべき事項（敗血症、小児ARDS(PARDS)、人工呼吸管理、体外式膜型肺、補助循環、急性血液浄化法等）に関して追加
 - CS-02-04-33 「気管挿管を含む各種の気道確保法を理解している。」を追記

パブコメを受けたコアカリへの反映

【学修目標】

- IT-01-01 情報科学技術に向き合うための倫理観とルール
 - IT-01-01-03 「デジタルデバイド」の表現がわかりにくいという指摘
⇒ 「デジタル情報や科学技術の活用における社会的格差」に表現を修正
- CS-05-06 患者安全の実践
 - CS-05-06-04 「インシデントが発生した際に、緊急対応や記録、報告ができる」
インシデントの定義を、国大病の定義 [医療を提供する過程で本来の状態から外れた全ての事象] をとることとし、文言を修正した

パブコメを受けたコアカリへの反映

【学修目標】

- S0-01-03 地域保健
 - S0-01-03-01 「保健所、市町村保健センター、地方衛生研究所の役割を理解している。」
 - S0-01-03-04 「精神保健及び精神障害者福祉の意義及び関連する制度や法律を理解している。」の2項目を追加した
- S0-04-07 社会的公正
 - S0-04-07-01 「医療資源を公平に分配するとはどういうことか考え、自らの意見を述べる」を追加した

パブコメを受けたコアカリへの反映

【学修目標：表の修正】

- 表 1（疾患）に関する修正
 - 器官系によって使用・不使用が統一されていなかった「サブカテゴリー」の欄を廃止して見読性を向上した
 - 精神系、神経系での修正
 - 精神系カテゴリーに入っていた「心身症」は、心身医学的疾患のカテゴリーを新設して移動した
 - ワクチン予防可能な疾患に「ヒトパピローマウイルス」を追加
- 表 2 の修正（2-16精神系）
 - 認知障害 ⇒ 「認知機能障害」 への修正（表 5 も修正）
 - 検査法に「脳波」、「脳画像検査」を追加し、特異的治療法における「精神科診断分類法」、「精神科面接」⇒ 「精神療法」、「精神科薬物療法」に修正 11

パブコメを受けたコアカリへの反映

【学修目標：表の修正】

- 疾患の追加・記載修正（表1）
 - 中毒性表皮壊死症（TEN）、化膿性脊椎炎、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、小児神経系（夜尿症、急性脳症など）の追加
 - PS-03-05 救急・集中治療の変更に伴う小児への追加（小児急性呼吸窮迫症候群(PARDS)、敗血症、消化管異物、気道異物）
 - 神経失調性失神 ⇒ 神経調節性失神、嚥下性肺疾患 ⇒ 誤嚥性肺炎、激症型肝炎 ⇒ 急性肝不全
- 基本となる疾患（●印）の追加
 - 麻疹、風疹、水痘、扁桃炎
 - 左心不全、右心不全、急性心不全、慢性心不全
 - 高血圧症（本態性・二次性）
 - 脂肪肝、門脈圧亢進症、肝性脳症、肝癌
- 表5 主要症候：脊椎圧迫骨折 ⇒ 「脊椎椎体骨折」へ修正

パブコメを受けたコアカリへの反映

【学修目標：表の修正】

• 基本的臨床手技に関する追加・修正

- 臨床手技と身体診察において「実践できる」「実演できる」のレベル分けが記載されていたが、卒業時の到達目標として門田レポートとの乖離が大きいという指摘

⇒ 【表 7：基本的臨床手技】

門田レポートと整合をとり、目標のレベル分けを削除し、追加・修正

- 皮膚消毒、外用薬の貼付・塗布、ネブライザー、尿検査(妊娠反応検査を含む)の追加
- 動脈血採血、腰椎穿刺は表から外したが、他の基本的臨床手技についても適切な準備・監督下で行っていくことは妨げないと記載した

【表 3：身体診察】

別表 7 の修正に合わせて目標レベル分けを削除

パブコメを受けたコアカリへの反映

【学修方略・評価の事例】

1. プロフェッショナリズムの引用文献表記を修正

4. スポーツ医学

- 学修者のパフォーマンスレベルに配慮し、健康に関するデータを用いた患者への運動指導の方略、生涯スポーツを考慮した継続的な運動指導や行動変容を促す省察評価を記載

5. Peer-assisted learning

- 分かり易くするため「Peer-assisted learning」から「共に学ぶ姿勢」に事例名を変更

パブコメを受けたコアカリへの反映

【診療参加型臨床実習実施ガイドライン】

- ・ GL II. 7. (4) 学生による診療録記載と文書作成について
 - ⇒ 臨床実習で関わった診療における記録の位置付け等について一部修正
- ・ GL II. 8. (2) 包括同意
 - ⇒ 包括同意の説明文書（例）に患者相談窓口の説明を追加
- ・ GL III. 2. 医療面接・身体診察・診療録記載
 - ⇒ バイタルサイン、高齢者総合機能評価を追加
- ・ GL III. 4. 基本的臨床手技
 - ⇒ 門田レポートを参考に項目を追加
- ・ GL IV. 3. 実習診療科での学修目標の設定
 - ⇒ コアカリ本体、GLの修正の合わせて各種実習診療科のマトリックス表を修正
- ・ GL VI. (例示) 学修と評価の記録
 - ⇒ コアカリ本体、GLの修正に合わせて臨床実習の到達目標の各種評価表を修正

コアカリ調査・研究チームの今後の活動について

- コアカリの英訳
 - H28年度版に引き続いて実施
 - 英訳チームの始動
- 電子化
 - コアカリのICT化
 - 電子化チームの編成開始
- コアカリ改訂の周知と討論
 - シンポジウム計画

令和5年1月20日（金）午後を予定